

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078700145		
法人名	有限会社 裕和		
事業所名	グループホーム 陽だまり		
所在地 (電話番号)	〒835-0023 みやま市瀬高町小川1152-4 (電話) 0944-63-2256		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年3月23日	評価確定日	平成21年4月30日

【情報提供票より】(H21年3月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 11人, 非常勤 3人, 常勤換算 11人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独		新築 / 改築	
建物構造	木造		造り	
	2 階建ての	1 階 ~	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (3月9日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.7 歳	最低 83 歳	最高	95 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	植田医院、安野歯科、新船小屋病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム陽だまりは、築60年の民家を増改築して平成13年に開設された、1ユニット少人数のホームである。町中に建物や庭が違和感なく溶け込み、静かなたたずまいの住居である。ホーム内はお年寄りの馴染みやすい環境が作られており、居間には手づくりののれんやクッション等が置かれ普通の家で暮らしているようで、入居者に安心感をもたらしている。かかりつけ医との連携がよくできており、ホームでの看取りも多くの人に提供されている。管理者は母親の介護体験や長年の介護施設での経験・管理栄養士の経験を基に熱意と信念を持ち運営している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題(市町村との連携・家族への連絡・災害対策・入浴・食事作りと介護など)について管理者・職員間で話し合われ、改善に向け取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>まず管理者とリーダーで自己評価が検討され、次にスタッフ間で必要な項目について意見を出し合い自己評価が完成している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、記録がきちんと残されている。討議内容は入居者状況 行事について 家族会 出張報告 無断外出について等で、入居者のQOL向上に向けての取り組みに活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族の意見は、来訪時・家族会・意見箱・ホーム便り・運営推進会議などにおいて把握し、真摯に受け止めホーム運営に反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所のお宮へのお参りや草取りなどを行っている。自治会には加入できているが老人会へは地域の一部の人の認知症への理解不足があり加入できておらず地域連携は課題である。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で「のんびり ゆっくり その人らしく」を陽だまり独自の理念としており、ホームの玄関など数ヶ所に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と倫理綱領について毎朝ミーティング時に朗唱し、意味を掘り下げ話し合われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や隣組への加入は出来ているが、老人会へは地域の一部の人の認知症への理解不足もあり加入できていない。近くのお宮へは入居者と共にお参りし草取りなどを行っている。		地域のお祭りや行事などへ入居者と積極的に参加し、地元の人達と交流を深めてホームの理解を得ることを期待する。地域の認知症の理解については市町村への相談を継続することが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず管理者とリーダーとで自己評価が検討され、次にスタッフ間で必要な項目について意見を出し合い自己評価が完成している。		自己評価は、まず職員全員で関連の過程に取り組むことでサービスの質確保に活かし、又、外部評価の結果を踏まえての改善計画を作成することが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回定期的に行われ、その記録もきちんと残されている。会議のメンバーは、行政の介護保険担当者・区長・民生委員・家族などで構成されている。ホームの近況報告や検討課題(無断外出等)が話し合われ、入居者のQOL向上に向けての取り組みに活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームでの悩み事(例:MRSAやインシュリン注射のケースでの入居者の受け入れ)等においては、積極的に市町村担当係へ相談しサービスの向上に努めている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度の利用該当者はいないが、定例勉強会において理解を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、来訪時・必要に応じて電話連絡・毎月の出納簿の書類郵送・ホーム便り(年2回)・家族会(年2回)・運営推進会議などで報告している。		ホーム側は家族は忙しいだろうと遠慮がちだが、ホームにとって家族が一番の理解者でもある。そのため、家族の来訪時を捉えてよく話し合い、行事への参加等もお願いしたりするなどして、介護計画・居室作りへ家族にも参加してもらうことが望まれる。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族のホーム来訪時の意見には積極的に耳を傾け、日常のサービスケアに反映させている。ホーム独自の家族向けアンケートも実施されている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・離職は幾分多いが、その時期や引継ぎなどで気遣い、配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に当たっては性別や年齢を理由に採用対象から排除していない。職員の資格取得についても前向きな配慮がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員に対する人権教育・啓発活動の研修などを受講している。特に職員の言動には注意している。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会へは積極的に参加しており、全国大会の名古屋へも3名参加予定としている。管理者は職員のホームヘルパーや介護福祉士などの資格取得についても支援している。		ホーム内での月1回の研修会が不定期となっているため、職員と話し合いながら年間計画の中で研修を位置づけていくことに期待したい。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム地区毎の研修会が月1回行われ、積極的に3~4人は出席し交流・連携を深めており、学びをサービスケアの質向上に活かしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がホームに馴染み納得した入居となるように、体験利用入居(期間は個人差があり1~2日、1週間、1ヶ月)を無料で行っているが、体験利用のみで入居に至らないケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「共に過ごし 学び 支えあう」ことを大事にしている。地域的にも農業をしていた入居者が多く、ホームの畑仕事では職員へ色々教えてくれる人もいる。調査日には入居者と職員とで入居者も馴染みの深い地域特産高菜漬けが行われていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>その日その日の入居者の思いや意向の把握に努め、本人の希望を第一としてサービスの提供をしている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに定期的にサ - ビス担当者会議を開き、本人本位の計画が話し合われ記録されている。計画の見直し時には家族へ電話などで介護希望を聞き、具体的な計画となるよう努めている。</p>		<p>入居者の今までの生活史や生活ぶりを一番ご存知の家族に介護計画の作成に参加していただき、介護の思いやアイデア・希望を計画書に反映できることを期待する。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>管理者でもある介護支援専門員が率先して介護計画の遂行状況や効果などを評価するとともに、利用者の状態変化や家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>帰宅願望のある入居者へは、家族へ「15分帰らせて下さい」と了解をとり職員同伴で帰宅し要望に応えるなど、柔軟な支援をしている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医・協力医療機関とよく連携が出来ており、必要時には夜の往診もされている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病状の重度化や終末期にあたっては家族へ説明と同意を繰り返し行い、かかりつけ医との緊密な連携とホーム独自の「ターミナルケアに関する指針」に基づき対応しており、全員で方針の共有ができています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間で入居者のプライバシーを損ねないように言葉かけや語調に注意しあっている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日をどう暮らしたいかを意思表出できる入居者へは成就するように支援し、意思表出が少ない入居者へはその人のペースでその人らしく生活できるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、食事の準備・片付けなども職員とともに出来ることを行い、職員も一緒に食事を摂っている。管理者は管理栄養士でもあり糖尿病食も提供でき、入居者の嗜好も把握され、食事献立にも配慮している。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1人ずつ職員が見守り介助し、ゆっくり入っている。入浴日は昼間は火・木・土で週に1日は夜の入浴としている。やはり夜の入浴はゆっくり入ることができて穏やかになるようだとの管理者の話があった。		週3回の入浴だけでなく入居者一人ひとりの気持ちや習慣に合わせての入浴支援となることを期待する。(例えば夜間入浴・シャワー浴・毎日入浴など)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎週金曜日は書道教室を開き、殆どの入居者が集中して書いており、気晴らし支援となっている。調理やホームの畑の手入れなども楽しみになっている人もいる。その他絵画教室やお寺からの法話も行われている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのお宮への散歩やお参り、そして近くの店での買い物等も出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は車の多い道路に面している。離設する入居者もおられる中で、職員は玄関には鍵をかけずに介護ケアに取り組んでいる。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時の計画書に基づき火災対策訓練は年に2回行い、その内1回は消防署も入り入居者も参加しての訓練となっている。避難場所はホームの表と裏、そして中庭と周知され、職員からの確認もできた。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎回チェックされ、記録されている。水分量の記録はないが、1日に1500～2000ccを目標に職員が水分の飲量を観察し介助している。管理者が管理栄養士でもあり専門的な視点での支援がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い民家の増改築であるため入居者は懐かしく暖かい雰囲気の中で生活している。玄関脇の掲示物は色紙や習字の作品などで季節感も感じられ、居心地よい空間となっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた整理ダンス・仏壇・写真などが各自の部屋に持ち込まれている。また古い民家の押入れや棚などがある部屋もあり、居心地のよさも感じられる。		